



### contents



#### 特集 広がる地域産品の海外への販路拡大

リーダー対談 「A! Premium」始動 物流改革により県産品を海外へ  
青森県 佐々木郁夫 副知事

ヤマト運輸株式会社 梅津克彦 執行役員グローバル事業推進部長

- 【事例紹介①】青森県および熊本県との連携協定締結後の展開
- 【事例紹介②】日本各地で海外への販路拡大の動きを支援

#### 新着情報

- 北陸3駅で、タブレット端末を導入し送り状記入いらずの手ぶら便サービスを開始
- 航空輸送で「地産外消」を支援、徳島県で水揚げされた鮮魚を北海道に翌日配送
- 青森県内での「高齢者見守り支援サービス」の提供地域が拡大

### 特集 広がる地域産品の海外への販路拡大

#### リーダー対談 「A! Premium」始動 物流改革により県産品を海外へ

ヤマトグループは、本業を通じて社会的課題の解決を目指す「CSV(Creating Shared Value)」の考え方のもと、グループ各社が保有するネットワークや機能(情報・物流・決済)を行政や住民、NPOなど地域の方々に提供し、一緒に課題を解決することで地域活性化を目指す「プロジェクトG(government)」に取り組んでいます。昨年7月には、「青森県ロジスティクス戦略」に基づき、県産農林水産品の国内外の流通拡大を物流面で支援する「青森県総合流通プラットフォーム」を構築し、今年4月から輸送サービス「A! Premium」の提供を開始しました。今回は、取り組みの一つである海外への販路拡大を中心に、取り組みの経緯や生産者からの反響、今後の展開について、青森県の佐々木 郁夫副知事とヤマト運輸株式会社 梅津 克彦 執行役員グローバル事業推進部長が対談しました。



#### 震災を契機に、戦略的に「物流」を見つめ直した青森県

**佐々木副知事(以下、佐々木):**2015年4月27日から、青森県総合流通プラットフォーム「A! Premium」の輸送サービスが始動しています。ヤマトグループの協力を得て、西日本へ翌日午前配達、アジアへ最短翌日配達するスピードで青森県の農林水産品の出荷が可能となりました。輸送時間を短縮し鮮度・品質を保持したままお届けする付加価値の高い物流の仕組みを整えることができ、大変感謝しています。

**梅津部長(以下、梅津):**青森県が「物流」に着目されたのはどのような経緯からでしょうか。

**佐々木:**2011年3月11日の東日本大震災が重要な契機となりました。あの日、東北の物流が止まり社会に大きな混乱が生じましたが、青森県が救援物資の輸送をはじめ重要な物流拠点となり得ることが確認できました。さらにその後、津軽海峡を中心に青森県を俯瞰し、本県が持つ物流上の可能性について調査研究をしたところ、国内外をつなぐ重要な航路が青森県の目の前を通っていますし、水深の深い良港の適地でもあることから、北東アジアの物流拠点にもなりうる地政学的な可能性も確認できました。



佐々木副知事(左)と梅津部長(右)



**梅津:** ヤマトグループとしても、東日本大震災の発生後に物流網が寸断されたことで物流を継続させることの重要性を再認識するとともに、ヤマトグループが持つラストワンマイルネットワークとIT・LT・FTの各機能を地域の皆様のプラットフォームとして提供することで地域活性化に貢献する取り組み「プロジェクトG (government)」を大きく前進させる契機となりました。

**佐々木:** 青森県は、物流に関する研究を進め2014年1月に「北東アジアにおけるグローバル物流拠点化」を目指した「青森県ロジスティクス戦略」を策定しました。この戦略に基づき、従来青森県が抱えていた首都圏などの大消費地から遠いという地理的な課題や輸送時間、輸送距離、輸送費用などの物流課題を改善し、「より早く、より遠く、より安く」、青森県が誇る農林水産品を国内や海外に広く展開することに取り組みはじめました。また、2014年度にスタートした「青森県基本計画未来を変える挑戦」では、「強みをとことん、課題をチャンスに」を基本コンセプトとして、「世界が認める『青森ブランド』の確立」に向け、各種施策を進めています。

### 物流革新「A! Premium」により生まれた新たな販売チャンス



ささき いくお: 1979年青森県庁入庁。2005年財政課長、2008年エネルギー総合対策局長、2010年企画政策部長を経て、2011年7月から青森県副知事。A! Premiumの契機となった「青森県ロジスティクス戦略」策定をリードするなど、県基本計画「未来を変える挑戦」の各施策を推進。

**梅津:** 青森県の農林水産品を国際クール宅急便で、例えば、香港などに流通させることで、日本国内と同じようにヒトやモノ、情報が動き、新しい商流が生まれます。この商流を活かし、生産者の方々が価値ある生産品を1個からでも販売できる新しいチャンネルとして、通常の販売チャンネルのプラスαを提供することが重要だと考えています。

**佐々木:** 生産者にとって小ロットからでも出荷できることは大きなメリットになっています。また、自分たちが作ったものを直接消費者に届けられることから、生産者はやり甲斐を強く感じる事ができています。

**梅津:** 青森県には魅力あふれる県産品が数多くありますね。

**佐々木:** 青森県は食料自給率がカロリーベースで全国第4位、生産額ベースでも全国第3位となっているほか、多様な農林水産品がバランスよく生産されているのが特徴です。また、日本海、太平洋、津軽海峡と三方を海に囲まれ、世界自然遺産白神山地や八甲田山などの豊かな自然に恵まれています。恵まれた自然と青森県の多くの生産者のたゆまぬ努力により育まれた代表的な県産品としては、「リンゴ」や「ニンニク」、「長イモ」、「ゴボウ」、「大間マグロ」、「ヒラメ」、「ホタテ」などがあります。また、足が早く、これまでは遠方への出荷が難しかった「嶽(だけ)きみ」や「野辺地葉つきこかぶ」なども魅力的な県産品です。

**梅津:** それらに加えて、甘くておいしいイチゴも青森県の魅力的な県産品のひとつだと思います。昨今、漫画やファッションなど、日本の文化が「クールジャパン」として海外で人気を博していますが、日本の高品質な農林水産品も海外で競争力を十分に発揮できると思います。また、日本には四季があり、春夏秋冬で地域ごとの旬の味覚を提供できるという世界でも類を見ない魅力があります。日本全国ほとんどの都道府県でイチゴは採れますが、青森県は、他の主な産地とは異なる時期にイチゴを出荷できるメリットを持っています。出荷できる生産物のバラエティが豊富なだけでなく品質も高いので、海外からは魅力あふれる県です。

**佐々木:** 近年、青森県では、クルーズ客船の寄港数が増加し、国内のみならず国外から多くの観光客が本県を訪れます。そうした方々に県産品の魅力を知っていただき、帰国してからも「A! Premium」を利用して新鮮なままお取り寄せいただくことができれば、青森県で体験したそのままのおいしさを現地でもお楽しみいただけたらと考えています。

**梅津:** 海外において日本食や食材は、安全と安心、そしておいしい、と三拍子が揃って評価されていると思います。海外のお客さま、例えば、中国や香港の方々は高い安いで判断するのではなく、お金を払う＝投資するに値するかどうかで判断します。つまり、日本の生鮮品についてはモノが良いことは十分理解していますし、生産者から直接手許に届くことにも大きな価値を見出しています。これからは、モノをお客さまに届ける「コト」にいかに付加価値をつけるかも重要です。



うめつ かつひこ: 大手百貨店で営業企画・国際開発に携わった後、2008年ヤマト運輸に入社。2013年よりグローバル事業推進部長、2015年より執行役員としてアジアでの宅急便事業や国際クール宅急便の開発などデリバリー事業のグローバル展開を推進。



### 青森県とヤマトグループの発展的な関係を築いていくために大切なこと

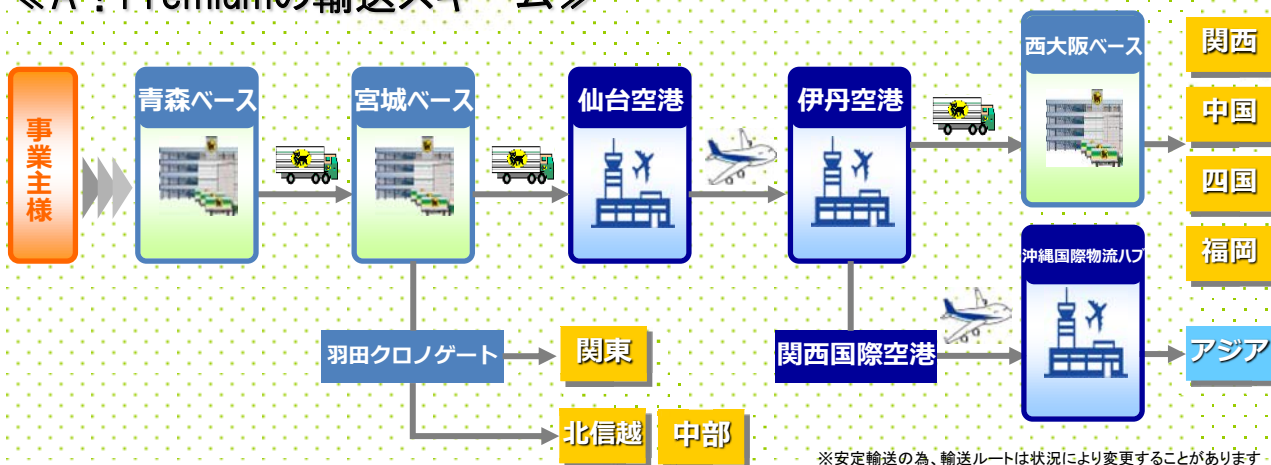
**佐々木:** 今後、「A! Premium」を安定したサービスとするためには、生産者の確保と販路の開拓が必要となります。青森県は、2014年7月に、ヤマト運輸株式会社と締結した「青森県総合輸送プラットフォーム構築に係る連携協定」に基づくこのサービスを政府が進める「地方創生」の代表例となるようにしていきたいと考えています。

**梅津:** 国際クール宅急便で一つひとつの荷物を運ぶことから始めて、生産者と消費者を永続的につなげるようにしていきたいと考えています。「MADE IN JAPAN」や「MADE IN AOMORI」が評価されることは当たり前ですが、将来的には、個々の生産者が「BY NAME」で評価されるような可能性を追求していく必要があると思います。

**佐々木:** 青森県の農林水産品のブランド力がさらに向上するように、ヤマトグループを良きパートナーとして今後も「A! Premium」を推進していければと思います。

**梅津:** 青森県の取り組みを今後もヤマトグループ全体で支援してまいります。また、今後は「A! Premium」など物流プラットフォームに関するノウハウを蓄積し、宅急便をはじめとするヤマトグループのサービスが国内だけではなく、アジアでもインフラとなるよう努力してまいります。

### 《A! Premiumの輸送スキーム》



### 青森県の高品質な水産品を出荷しています！

弊社は、生鮮魚介類や活魚、冷凍魚、塩干品、加工品などの水産物卸売業者として1972年に設立され、水産物の国内販売の他、近年では輸入・輸出事業にも注力し国内外の市場開拓に努めてきました。「A! Premium」を利用して、2015年4月から福岡や鹿児島に向けて、また5月から大阪や香港に向けて、鮮度が重要な「活ホタテ」を出荷し、「とても甘くておいしい」という評価を多くいただいています。国内はもちろんですが、香港をはじめとする海外のお客さまに、「A! Premium」が保証してくれる出荷商材の鮮度を実際に確認していただき、「活ヒラメ」や「無添加ウニ」、「活アワビ」なども今後青森県が誇る水産品として出荷できると期待しています。

### ～青森中央水産株式会社 様～



「青森のアワビは、歩留まりがよく、しかも味も最高ですよ」と青森中央水産株式会社企画部部長の福岡有（ふくおかたもつ）さん



### 【事例紹介】

## 1 青森県および熊本県との連携協定締結後の展開

### 【青森】

2015年4月から始動した、青森県の農林水産品を西日本へ翌日午前中、さらに香港などアジア圏へ最短翌日の配送を実現する輸送サービス「A! Premium」により、新たなビジネスが生まれつつあります。香港の高級日本食レストランチェーンは、2月に国際クール宅急便(冷蔵)を使用して仕入れた青森県産の活ホタテ・生ウニなどの鮮度、おいしさに驚き、6月から青森フェアを開催。6月第1週から活ホタテ、第4週からヒラメ・生ウニのフェアを開催し、通常に比べ2割程度高い販売価格にもかかわらず現地の消費者より大変好評をいただいています。



### 【熊本】

2014年10月の「アジア向け熊本県産農林水産物等の輸出拡大に向けた連携協定」締結後、2015年3月に熊本県はヤマト運輸が連携している香港の通販サイトに「くまもと美食倶楽部」を立ち上げ、県産のイチゴやトマト、真鯛などの販売を開始しました。また、香港で100店舗以上を展開するケーキショップチェーンに新商品の食材として熊本県産のメロンを採用いただき、5、6月合計で約350ケース(3トン相当)の県産メロンを国際クール宅急便で納品。新鮮なメロンの甘味と香りは、ケーキショップはもちろん現地の消費者からも高い評価をいただいています。

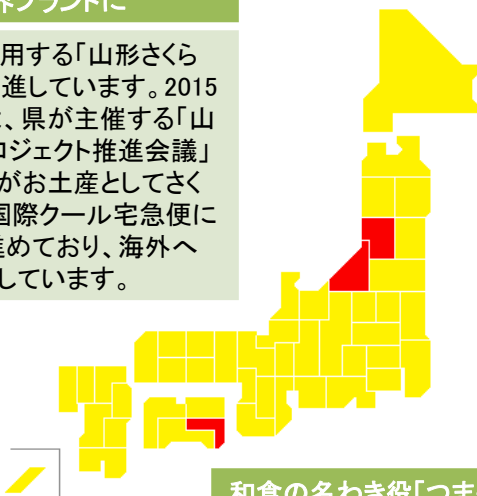


## 2 日本各地で海外への販路拡大の動きを支援

2013年10月からスタートした国際クール宅急便をはじめとしたヤマトグループのグローバルネットワークを利用して、地域の特産品を海外へ販売する動きが広がっています。ここでは、注目の取り組みを3つ紹介します。

### 「山形さくらんぼ」を世界ブランドに

山形県では、世界に通用する「山形さくらんぼ」のブランド化を推進しています。2015年6月よりヤマト運輸は、県が主催する「山形さくらんぼ世界プロジェクト推進会議」に参画し、訪日外国人がお土産としてさくらんぼを送れるように国際クール宅急便による輸送トライアルを進めており、海外への販路拡大をサポートしています。



### コシヒカリに続け「雪国生まれのマンゴー」

新潟県南魚沼市では、特産品の拡販支援を目指し、温泉熱を利用したハウス栽培の「ゆきぐに温泉マンゴー」などを海外へ販売するための輸出説明会を開催。その中で、ヤマト運輸は生産者へ国際クール宅急便をご紹介します。2015年6月から香港の通販サイトで「ゆきぐに温泉マンゴー」の販売を開始。他にもスイカやシイタケなどの出品が検討されています。



### 和食の名わき役「つまもの」がヨーロッパへ

徳島県は特産品の輸出拡大を目指し、2015年6月、日本料理に添える「つまもの」用の青モミジ、ナンテンなどの葉っぱや青ネギ・シイタケなどをヨーロッパへトライアル出荷しました。ヤマトグループによる一貫輸送でフランスなどのレストランに届けられた食材は、食にこだわる現地消費者にも受け入れられました。





# 新着情報

ヤマトグループ各社、各地域での取り組みを紹介します。

## 【ヤマト運輸・ヤマトシステム開発】

### 北陸3駅で、タブレット端末を導入し送り状記入いらずの手ぶら便サービスを開始

2015年3月14日に、東京から金沢までを結ぶ北陸新幹線が開業し、金沢と富山、長野を訪れる観光客が大幅に増加しているなか、ヤマト運輸はJR金沢駅と富山駅、長野駅の3駅すべてに、手ぶらで観光地めぐりを楽しんでいただけるよう「手荷物配送サービス(手ぶら便)」の受付カウンターを設置しました。そこでは、お客さまの利便性を高めるためヤマトシステム開発が開発したオリジナルの送り状発行ソフトを導入。タブレット端末でお客さまが名前を手書き入力し、お届け先の宿泊施設を検索して送り状を自動発行することで、お客さまは送り状を手書きする手間なく、手荷物を預けることができます。お預かりした荷物は宿泊施設まで当日中に配送し、お客さまの「手ぶら観光」に貢献しています。

また、金沢駅では英語対応も含めた「観光案内サービス」を、富山駅と長野駅では「手荷物の一時お預かりサービス」を提供し、お客さまから好評をいただいています。



## 【ヤマトグローバルエクスプレス】

### 航空輸送で「地産外消」を支援、徳島県で水揚げされた鮮魚を北海道に翌日配送

徳島県の水産業は、近年鮮魚の売上高の減少に苦慮し、県外への販路拡大を検討していました。そうした中で、徳島魚類有限会社はヤマトグローバルエクスプレスと連携し、徳島で獲れた鮮魚をおよそ1,300キロメートル離れた北海道中標津町や北見市の地元スーパーへ流通させることを実現しました。

北海道の一部の地域では、しけにより道内産の鮮魚の流通が滞り、「店頭には新鮮な魚が並ばないことが当たり前」となっていました。ヤマトグローバルエクスプレスが徳島で水揚げされた鮮魚を翌日のスーパーの開店前に納品する航空輸送の専用ルートを構築したことで、鮮魚の安定供給を実現しました。北海道で流通することの少ない四国沖の鮮魚がいつでも店頭で並ぶようになり、地元スーパーはもちろん、消費者の方々からも喜ばれています。



## 【ヤマト運輸】

### 青森県内での「高齢者見守り支援サービス」の提供地域が拡大

2013年4月、青森県黒石市で開始した「高齢者見守り支援サービス」が一定の成果を上げつつあり、新たに青森県深浦町でも「黒石モデル」の見守りサービスを開始しました。

青森県黒石市では高齢化・過疎化が課題となっており、市は一人暮らしの高齢者を見守る持続可能な仕組みを模索していました。そこで2013年4月よりヤマト運輸は、市が定期的に発行する刊行物を宅急便でお届けする際に、合わせて高齢者の安否を確認し、2日間続けて不在であれば市へ報告する「高齢者見守り支援サービス」を提供してきました。実際に、お届け先で体調を崩し倒れていた高齢者の方をセールスドライバーが発見し、迅速に対処することで事なきを得た事例もありました。

2015年4月からは、同じ課題を抱える青森県深浦町とヤマト運輸が「深浦町ひとり暮らし高齢者等見守り便宅配事業契約」を締結し、70歳以上の一人暮らしの方を中心とした約500世帯を対象にサービス提供を開始。お届けの際に異常があれば深浦町に報告し、町と民生委員の連携協働で、一人暮らしの高齢者の安全をサポートする取り組みを進めています。町の広報誌「広報 ふかうら」(2015年5月号)でもサポートの内容が紹介され、地域に密着した「見守り便」として着実に町の方々に認知されています。

